

『御声を聴き、御心に応答する』 エレミヤ書 33章1～11節 2015.7.19(主日礼拝説教より)

『わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。』 エレミヤ書 33:3

今年の初め、「わたしを呼べ」と語りかけられた。「わたし」とは、「すべてを造り、確かにされる方(2節・新共同訳)」とある。「確かな人生」とは何？信じるべきお方を知り、あらゆる境遇で御心をわきまえて歩み、生きている時も死ぬ時も変わらない慰めを知ること！これこそ確かな人生。◆エレミヤが預言した頃、北王国は滅びていた。しかし南王国ユダはその神の審判から何も学ばず、また不信仰ゆえに滅びた。捕囚から帰還した神の民は、どんなに賢くなったかと思いきや、約 600 年後のイエスの時代、信仰はうわべだけ(律法主義)で命を失い、エルサレムはまた AD70 年に崩壊した。神は、御心から遠く離れているそんな私たちに呼びかけられる。◆聖書の神は啓示(言葉)の神。『初めにことばがあった。ことばは神と共にあった。ことばは神であった。すべてのものはこの方(ことば)によって造られた…この方(ことば)に命があった…ことばは人となって私たちの間に住まわれた(ヨハネ 1:1～14)』。イエス様は「耳のあるものは聞け」と言われ、「たましいを生き返らせ、賢くし、人の心を喜ばせ、人の目を明るくする(詩篇 19:7～8)」神の言葉に聴き従う祝福へと私たちを導かれる。◆天地創造のとき『地は形なく、空しく、闇が覆っていた(創世 1:2)』。同じ言葉がイザヤ 34:11、エレミヤ 4:23 にある。神に捨てられ、滅ぼされ、絶望の中で彼らは、闇を光で照らし、罪を赦し、傷を癒し、御許に回復するという、人知をはるかに超えた希望の言葉を聞いた(エレミヤ 33:6～16)。◆ある大きな悩みを抱えるクリスチャンの方の証。「苦しい中、私の心に御言葉(詩篇 62:8、46:1)がスッと入ってきたと！」と。どんな時にも神を信頼し、避け所である神の御前に心を注ぎ出せ！その苦しみの中に助けがある！と！日々不安があり、厳しい現実があり、絶望の闇が覆う。しかしそこに「光あれ！」との御声を聞くと、魂は癒され、主の救いを知る。あらゆる境遇で聖名を呼び、御声を聞き、御心に従いたい！